

# ορπανος

## Vol.13

ウーラノス

「ΟΤΡΠΑΝΟΣ(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書は、白い服を着た二人の人が、天に昇った復活のイエス・キリストを見つめている弟子たちに「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」と語ったと伝えております(使徒言行録1章10~11節)。この箇所にも、οὐρανόςの語が用いられています。

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

特集

NEW WAVE T.G.U.

## 『大学改革への期待』

—企業と大学の創造的協働を目指して—



2003  
MAY



特集 NEW WAVE T.G.U.....  
新しい大学役職者の紹介...  
歴史を伝え、今に導く...  
学長室より.....  
大学院より.....  
学部より.....  
国際交流センターより.....  
研究所・センターより.....  
図書館より.....  
就職部より.....  
入試センターより.....

表紙：土樋キャンパス  
ラーハウザー記念礼拝堂

東北学院117年の歴史に裏打ちされた13万6千人ほどの同窓生が東北学院大学を織りなす縦系ならば、相互評価や国際交流は横系に相当します。良き伝統を保持しつつも大胆な改革をもって、託されている高等教育機関としての働きを遂行したいと願っております。

# 『大学改革への期待』

—企業と大学の創造的協働を目指して—

対談者：島田 和夫 氏

昭和35年に本学文経学部経済学科を卒業。同年神奈川電気株式会社(現カナデン)に入社。仙台支店長、常務取締役、専務取締役、副社長を経て、平成9年に代表取締役社長。平成12年7月から相談役。

倉松 功 学長

司会者：佐々木哲夫宗教部長(本誌編集委員会編集長)

場 所：本学土樋キャンパスにて



株式会社 カナデン 相談役  
島田 和夫 氏



東北学院大学長  
倉松 功

昭和35年に本学を卒業され、企業のトップとして活躍されました島田和夫さんから、企業が大学に求めるものや、東北学院大学の改革への期待などについてお話しを伺いました。

## 人格形成の軌跡

東北学院大学で学ぶ

司会 始めに、島田さんの学生時代についてお話しいただきたいと思えます。

島田 私の学生の頃は、就職難の時代で、モータリゼーションが日本に普及しはじめた時代でした。そのためでしょうか、就職条件の資格の一つが、自動車免許でした。私は自動車販売のアルバイトをしており、そのことがきっかけで、4年生の時に大学との橋渡しをして、後輩たちが自動車部を創部しました。

学長 自動車部の部長は、元法学部長で現名誉教授の上田宏先生ではなかったのでしょうか。

島田 そうです。私は上田先生のゼミで会社法を勉強していたこともあり、先生にお願いをしたのです。先生にはいろいろと面倒を見ていただきました。

学長 ゼミで会社法を学ばれたことが、特に社長となられてから役に立ったのではないのでしょうか。

島田 若い頃は、大学で学んだことが役立っているかどうかあまり意識していませんでしたが、会社の経営に参画するようになってからは、海外拠点や子会社の設立、株式の上場など、実務の上で商法や会社法を学んだことが大いに役立ちました。ビジネスマンにとって、今後ますます法律の知識を必要とする時代になると思います。

## カナデンでの経験と自身の責務

司会 経営者としてのご経験からお話しいただけますか。

島田 私が社長に就任した時、面識のない方からは是非会いたいとの話がありました。その方は、戦前の東北学院の卒業生で、「自分の後輩が仙台から上京し、経営の一端を担う立場に立ったことがうれしい。何かあつ

たら私のできる範囲で相談にのる」ということでした。さらにその方は続けて、「その代わりに、もしあなたのできる範囲でいいから相談にのってあげてほしい」とも言われました。これが東北学院の精神であり、同窓の絆であると、とても感激しました。ですから私は、出身大学を聞かれた時には、「はい、東北学院大学です。東北学院大学で学びました」と自信を持って答え、東北学院大学を卒業したことを誇りにしております。自由な学風の東北学院は、多くの出会いを与えてくれました。実社会では、その出会いがとても役に立ったと思います。人は、出会いと交わりによって成長することを常に感じています。学長 東北学院大学にとって、とてもうれしい言葉ですね。

島田 当社は今年で創立96周年を迎える技術商社ですが、商社にとって人が財産であります。人をいかに育てるかを自分に課せられた課題として取り組んでまいりましたが、社員を教育する上で、私の指導や考え方の支えとなりましたのが、学生時代に礼拝で聴いた「人を動かし、人に感動を与えるのはあなたの愛情と言葉です」という説教でした。人を育て、人を動かす基本は、相手をいかに信頼することができるかということであり、相手に対する配慮といたわりではないだろうかと思っております。また、近年、企業では、効率性の追求や利益を重視するあまり、善悪に対する倫理観が欠如する傾向にありますが、社員に対して利益追求の合理性も企業にとって重要な課題であるが、それ以上に倫理を優先できる人になってもらいたいと言い続けてきました。

学長 そうですね。最近特にそのような傾向が見られます。同窓生とお会いすると、ほとんどの方が、大学で最も印象に残っていることは、礼拝とその説教と言われます。礼拝は、本学の建学の精神であるキリスト教に

よる「人格の形成」の場です。人生の指針や価値観、倫理観を培うためにも、多くの学生に出席してもらいたいと願っています。

## 企業からの視点

今日の経済と大学との関係

司会 大学を含めた教育機関が、社会経済の中でどのように位置づけられているのか、企業でのご経験を交えながらお話しいただければと思います。

島田 21世紀は知的産業社会といわれております。これまでの工業生産社会から知識に基づく経済社会に移行する中で、日本の産業構造も、一層グローバル化し、サービス化に向かって大きく変わって行くと思います。当社もこうした産業構造の変化に取り残されることのないように、これまでどおりの仕事の仕方や、これまでどおりの考え方から脱皮するために、社員の意識改革と将来を見通した新しい技術や知識の習得に、真剣に取り組んでおります。日本も、今直面している景気の低迷から抜け出すために、新しい時代に対応できる幅広い知識を持った労働力の育成と、日本人がバブル期に失ったといわれております経済の原点である勤勉さと倫理観の回復に、全力をあげて取り組まなければならないのではないかと思います。

期する所は、これからの日本の教育の在り方です。政府も知的財産立国を目指し、大学の持つ知的資源に大きな期待を示しております。日本復活の鍵を大学を含めた教育機関に委ねられているのではないのでしょうか。

学長 日本経済の低迷が、倫理観の欠如の一因になっていると思われる。確かに今日の多くの大学は実利的方向にあります。しかし、本学は、建学の精神にも現れているように、人間形成に重点を置いております。

本年で創立117年目ですが、その一貫した教育姿勢が認められてきています。大学の置かれている状況を十分に把握し、学生や地域社会の要求に応えられるよう、伝統と改革の調和を図りつつ、人間形成を展開していきたいと考えております。

これからの大学に求める教育

司会 今日の社会において、大学教育に求められている具体的なことは何でしょうか。

島田 数日前の新聞で、「学生の能力が低下している」「学生の質が下がっている」という評価が7割を占めたとの世論調査が掲載されました。私は、このような結果の要因として、一般常識や基礎知識とともに、教養の欠如があるのではないかと推測しています。それゆえ、学長が東京同窓会の席上でおっしゃった、東北学院大学は教養教育を重視しつつ学生を育てるとの目標に共感した次第です。

学長 従来はもっと早い段階で身につけるべき一般常識や基礎知識の教育が、今日の大学に求められていることは事実です。しかし、本学が重視する教育は、一般常識や基礎知識だけを培うものではなく、個人の尊厳を根拠とした、人格や価値観の形成を主とした教養教育なのです。私は、「卒業してすぐ役に立つ知識は、一番早く役に立たなくなる」という言葉を用い、教養の重要性を語っております。若手県立大学の西澤潤一学長や、ノーベル化学賞を受賞した名古屋大学の野依良治教授なども、技術革新や産学連携を推進しながら技術を培っていくと同時に、教養教育の大切さを主張しています。それは、一つの共通認識ではないのでしょうか。

## 大学の持つ資源の活用 産学連携

司会 大学は、さまざまな知的、また、人的資源を有しており、それらを社

# 『大学改革への期待』 —企業と大学の創造的協働を目指して—



本誌編集委員会編集長  
佐々木 哲夫

会にどのように還元していくべきかを考えています。そのことに関して、島田さんのお考えをお聞かせください。

島田 当社では、入社後、更に専門知識を習得させるため、海外研修などを含め継続教育に力を入れております。当社が力を入れている分野のビジネスで、アメリカの大学を視察させたことがありますが、現地の先生から「この分野で日本でも立派な先生がいるので、アメリカに来ることがなかったのではないかと」アドバイスを受けたことがありました。実際のところ、日本の大学の持つ知的資源を、一般的にはあまりよく理解されていないのではないかと思います。

学長 それは一方で、日本の社会が、日本の大学の学問や研究を評価していないとの側面があるのかもしれない。エコノミック・アニマルという言葉に示されているように、現実的な有効性や効用性だけを評価する傾向が強いのだと思います。

島田 大学の持つ知的資源に対して、企業側の期待はますます大きくなると思います。大学の持つ知的資源を企業に還元し、産学連携の形で産業界において活用されるためには、大学と企業の接点となる情報交換の場と、大学と企業双方の事情に精通し、大学と企業を結びつける能力を持った人材を育成することが必要ではないかと思えます。大学側の状況、企業側のニーズなど、双方の事情を理解し合うことによって、産学連携への動きが作られると思えます。

学長 企業と大学の接点を見い出す一つの方策として、多くの大学で、産学連携のための機関を設置しています。本学でも、全学的に産学連携を推進するために、昨年4月に大学附置機関の「産学連携推進センター」を設置したところです。

島田 失われた10年といわれております1990年代以降、日本の大半の

企業は、コスト削減を優先することを余儀なくされ、新しい需要を創り出すための技術開発投資や生産設備投資を犠牲にせざるを得ない状況に置かれてきました。しかし、急速な技術革新とグローバル化が進む中で、日本企業が競争力を高めていくためにも、産学連携に期待するところが大きいと思います。学長 産学連携については、大学側に固有の事情があります。つまり、一方では、工学系の連携のように、大学での研究結果が産業界に直接結びつくという密接さがあり、他方、文系は、必ずしもそうでないということです。

島田 確かに産学連携は、工学系では比較的取り組みやすい課題ですが、文系では難しい課題かも知れません。しかし、企業が事業を発展させるために、複数の異質の企業の連合体に生まれ変わっていく時代です。今後いろいろな組織の連携が見られ、文系の分野での産学連携の推進も可能ではないかと思えます。

東北学院大学の卒業生は、地元企業の二世が多いと聞いておりますが、大学の持つ人的資源を活用し、卒業生の企業や地元企業に対する人材派遣や社員教育の場などで、産学連携の活動ができるのではないかと思います。

学長 そうですね。先ほど申しましたように、本学に全学的機関である産学連携推進センターを設置したことにより、文系の分野での連携をより一層進めたいと思えます。さらに、工学系の学生が、専門技術の修得と同時に、経済や法律の知識を持つことができるようになれば、より多くの場面で役に立つのではないかと考えています。そのような教育を一層充実して進めるためにも、文系と工学系の組織を同一のキャンパスに置くという課題も出てくるでしょう。

## 企業から学ぶ改革 危機意識の共有

司会 東北学院大学では、今、多くの改革を行っています。企業で行われている改革は、どのようなものでしょうか。

島田 改革・改善に対する考え方や取り組み方はいろいろあると思いますが、改革・改善は、危機意識にあると考えております。改革を進めるにあたり、課題としてきましたことは、組織の中に危機意識をどう作り出し、社員全員にその危機意識をどう共有化させるかでした。この共有化を組織に定着させるために、社員との直接対話を進めてまいりましたが、組織の中に、自分に与えられたことさえあればよいという考え方をしている社員がおりますと、改革・改善はなかなか進まず、組織全体にも勢いがなくなります。

学長 本学における法科大学院の設立や教養学部改組という方向は、教職員の危機意識によって生み出された改革であると思っております。教養学部は、高いレベルの受験生が集まる最も競争力のある学部です。その教養学部を一層強化するため、既存の三つの専攻を4学科に改組することを計画しています。今後は、教養学部の4学科で教養教育を徹底して行うことで、ますます本学の重要な基礎的な学部になっていくと思っております。いずれにせよ、教職員が一つとなって改革に取り組む姿勢が生まれています。

## 東北学院大学の姿

学生に伝えたいこと  
目的意識と出会い、同窓生の絆

司会 東北学院大学の学生に伝えたいことがありましたらお願いします。

島田 始めに申しましたように、私は、常に、人をどう育成するかということを考えてきました。それは、



懐かしい出会いがそこにある  
『ホームカミングデー〔第4回同窓祭〕』  
開催のご案内

いつの時代も「企業は人なり」だからです。立派な戦略、戦術があっても、人が動かなければ、それらは架空のものとなります。学生の皆さんに、大学生活の四年間に、どのような目的のために、何を学び、何をしてきたのかを自信を持って言えるようにしてほしいと思います。採用面接で、「あなたは今までに何をしてきましたか」と聞くと、返答に戸惑う学生が意外と多いのです。目的意識を持つ学生と、そうでない学生とでは、仕事に取り組む姿勢も違ってきます。

学長 そうですね。私も、本学の学生に対して、大学で何を学び、何をなすのかを自覚してもらうために、東北学院大学の本質を繰り返し伝えたいと思います。目的意識を持つと同時に、グローバルな価値観、とりわけ、一人ひとりの個性を充分に開花させるような基礎を大学で身につけることが必要です。それらを、4年間の自由な教育の中で獲得してもらえれば、生涯を導く力となるのではないのでしょうか。島田 もう一つ伝えたいことは、同窓生の絆を大切にしてほしいということです。東北学院大学の同窓生には各分野で活躍されている方々がたくさんおります。こうした方々との絆を大切に、積極的に同窓生との出会いを作ることを勧めます。皆さんが実社会で働く時、必ず役立つと思います。

人の成長は、人との出会いと交わりによって育まれます。また、人の価値は、その出会いの受け止め方によって作られると思います。皆さんが人との出会いを努めて作れ、そしてその出会いから真剣に学べ」という言葉を送りたいと思います。

東北学院大学に希望するもの

司会 最後に、東北学院大学に対する希望や期待をお話しいただけませんか。

島田 期待しておりますことは、卒業生が、東北に根ざした最高の

教育機関である東北学院大学で学んだことを誇りに思う大学であり続けてほしいということです。そのためにも、東北学院大学の掲げる教養教育の重視の方針のもと、新しい時代に適応する幅広い教養を身につけた学生を社会に送り出していきたいと思っています。また、産学連携推進センターを中心に、地域社会とのかかわり合いを一層深めていただき、地域活性化のための役割を積極的に担う大学になっていただきたいと思っております。学長 とても大切な、また率直なご意見をありがとうございます。本学では、多くの社会人の勉学意欲に対する取り組みとして、さまざまな公開講座を提供しています。また、平成13年4月から、「学都仙台単位互換ネットワーク」を立ち上げ、主に宮城県内の国公立大学による単位互換を実施していますが、今後、この単位互換制度を一層充実させて、仙台市民の方々にも開放できないかと現在検討しているところです。法科大学院の設立や教養学部の改組、そして工業技術士やビジネススクールのような専門職大学院の設立の可能性も含めて、本学でできることを積極的に検討し、実施していこうと思います。また既に申しましたように、そのような専門的な教育の前提となる幅広い教養を持った人間形成のための教養教育を、今後も大切にしていきたいと思っています。

島田 昨年、何度か東北学院大学の公開講座を受講いたしました。こういう講座を通じて地域社会への貢献を意図されている大学の姿勢に触れ、意を強くした次第です。OBとして、これからも我が母校の発展のためにエールを送り続けてまいりたいと思っております。

学長 ありがとうございます。島田さんをはじめ、多くの同窓生の期待に添えますよう、一層努力してまいりたいと思います。島田さんの今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

10月18日(土)に、今年も土樋キャンパスを会場に、同窓生相互の親睦や現役学生との交流、また同窓生と大学の絆をより深めていただくために、4回目となるホームカミングデー〔同窓祭〕を開催します。招待者は、東北学院大学並びに当時の短期大学を卒業され、20年目(昭和58年卒業)、30年目(昭和48年卒業)、40年目(昭和38年卒業)、50年目(昭和28年卒業)を迎える方々及び元教職員の方々です。

詳細につきましては、「東北学院時報」でお知らせするとともに、招待者の方々には、直接ご案内状をお送りします。当日は、記念礼拝や特別講演会、パイプオルガンコンサートなどを企画しており、同じ日に在学生による大学祭も開催される予定です。ご学友の方々との再会や現役学生の姿を通して、当時は振り返っていただければと思います。



昨年のホームカミングデーの様子

問い合わせ先  
総務部調査企画課  
E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
TEL.022-264-6424/FAX.022-264-6364

# 新しい大学役職者の紹介

今後の検討課題と方策について——

## 総務担当副学長より

関谷 登

我が国の高等教育機関としての大学は、社会的要請との多少のミスマッチは残るとしても、量的には十分な水準に達しているといえるでしょう。一方、教育及び研究の質という点ではなお改善の余地があることは、多くの人々が指摘しているとおりです。しかしながら、後者については、質の評価が比較的容易であり、公的な誘導・刺激策と相まって競争意識が醸成されつつあり、十分とはいえないまでも改善のための条件は整いつつあるといえるでしょう。

対照的に前者については、近年FD<sup>1)</sup>の重要性が叫ばれているとはいえ、その評価が必ずしも容易ではないこともあり、どちらかというところ無関心であったように思われます。しかし、大学全入時代を目前にして、教育の質の向上こそが大学生生き残りの最善の戦略であることは疑う余地もありません。FDも突き詰めれば教職員一人ひとりの意識・意欲に行き着きます。働く意欲を大切に環境づくりのお役に立てればと願っています。

FD (faculty development ファカルティ・ディベロップメント)  
…大学等の理念・目標や教育内容・方法を改善するための組織的な研究・研修などの取り組み。

## 学務担当副学長より

大塚 浩司

今や、国公立を問わず、日本中の大学では「大学改革」の花盛りです。しかし、理念のない大学改革は、単に学生を集めるためだけの改革となってしまうかねません。

幸いなことに、本学には「建学の精神」という確固とした理念があります。しかし、私は、理念だけでは十分ではないと思います。理念を堅持しつつ、どのような大学を目指すのかという明白な目標を掲げ、教職員と学生が一体となって進む必要があります。そして、学内改革だけでなく、大学外へのアピールが大切です。文部科学省の「21世紀COEプログラム」や、「特色ある大学教育支援プログラム」などには、積極的に応募しなければなりません。これからは、外部評価を得て重点配分の国の予算を獲得しなければ、一律配分の補助も減額されるようになると考えられます。

私は、本学が一層高校生から選ばれ、在学生には満足される「個性輝く大学」になるためのお役に立ちたいと考えています。

## 文学部長より

平河内 健治

文学部は、哲学・歴史・文芸・言語などを通して、人間そのものを根源的に扱うところです。それだけに、一見、実用に向かない印象を持つかもしれませんが、すぐには役に立つが、すぐに時代遅れとなるようなものではなく、恒常的に役に立つことを学ぶところです。

スーパー・マーケットの透明なプラスチック容器などは、見目麗しく、便利です。しかし、使い終わると、ゴミの山と化します。プラスチック容器のようなものとは異なる人間を育成することを目指したいと思います。

当面の課題は、大きくなり過ぎた英文学科と史学科を量的に適正規模とし、個人をより大事に尊重できる環境を整え、教育内容・学生サービスを質的に向上させ、学生のニーズに応えていくことと、小人数教育のキリスト教学科を「建学の精神」継承に鑑み、全学的に位置づけることです。

これらの実現に向け、学部意向が反映できる平和的仕組みが学部内に常に生れるよう努力したいと切に願っております。

## 経済学部長より

遠藤 和朗

経済学部では、さまざまなライフスタイルを持つ学生に柔軟に対応するため、平成12年4月より昼夜開講制を導入し、本年で4年目を迎えることとなります。柔軟な履修形態の導入が、学生のニーズとカリキュラムの拡大にどのように結びついていくか、昼夜両コースの学生の履修がどのように行われているかなどについて検討し、今後更に充実した制度の実現を図っていきたく思っています。

また、時代の要請と社会のニーズに対応するため、少人数による専門教育や英語教育、情報処理機器を用いた教育にも力を入れており、学生の更なる意識の向上を図りたいと思っています。近年実現した経済学科の「野村證券提供講座」や経営学科の「インターンシップ」は、その内容が現実社会との結びつきが強いこと学生に関心も高く、多くの期待が寄せられています。

今後とも、学生の関心の喚起と意欲の発揚に向けて授業に工夫をし、学生の教育の向上に努めたいと思っています。

## 大正デモクラシーの源流としての東北学院

経済学部教授 仁昌寺 正一

我が国の大正時代に「大正デモクラシー」と呼ばれる民主主義的風潮があったことはご承知のとおりですが、この中で東北学院はどのような役割を果たしたのでしょうか。この点については、これからさまざまな観点からの検討がなされることと思われませんが、在仙の大正デモクラシーの研究者である小野寺宏氏の研究によりますと、「宮城県における大正デモクラシーの三羽鳥」といわれた吉野作造、内ヶ崎作三郎、小山東助の若き日に、東北学院関係者が極めて大きな思想的影響を与えていたことがわかります。

よく知られていますように、この三人はクリスチャンでした。このうち、吉野作造、内ヶ崎作三郎は仙台の第二高等学校在学中に入信し、小山東助は社会に出てから入信したと言われていますが、その動機について、内ヶ崎は、「その頃同級生で東北学院より入学せる栗原基君と云う立派な青年が居た。此の人は仙台のバプテスト教会の熱心な信者で、尚綱女学校の校長をして居たブゼル女史の秘書の仕事を手伝って居た。私は栗原君に誘はれて土曜日の夜開かれるブゼル女史の英語の聖書講義に出席し始めた。その会には追々吉野作造、小山東助、島地雷夢君等も出席するようになった（小野寺宏『愛天内ヶ崎作三郎資料・第2集』、73ページ）と述べています。そして、栗原とともに市内のキリスト教の団体である「恋愛之友倶楽部」に入ってさまざまな活動を行い、やがて明治31年7月の二高の卒業式の前日に「吉野、島地、栗原君の令妹と共にバプテスト教会に入会した」（同上、73ページ）といひます。してみると、彼らがクリスチャンとなるに至った動機は、やはり、東北学院出身者であった栗原基の影響を抜きにしては考えられません。

やがて、この三人は、相前後して東京帝国大学（現東京大学）に進学しました。そして、東京では、将来の身の振り方などについて時々話し合っていたようです。この頃のことについて、吉野作造は、「これは大学に入って間もないことであると記憶して居るが、或る晩青年会館の一室で、内ヶ崎君と小山君と僕と三人で話しあったことがある。内ヶ崎君は頻りに英国に於けるスコットランドの使命を説き、国家の精神的開発はどうしても東北の人間が之を掌らなければならないと大気焔を吐いた。それにつひ釣り込まれて、というど如何にも不真面目のやうであるが、その当時三人は少なくとも真面目であったと記憶して居る。然らば我々三人が東北精神を代表して、日本の精神的開発の為に一身を捧げようといふやうなことを話合ったことがある（吉野作造「小山君の思ひ出」、『新入』1919年10月、107ページ）と述べています。

ここで内ヶ崎が力説していたのは、東北学院の創立者の一人である押川方義がよく口にしていたといわれる、「東北をして日本のスコットランドたらしめん」という言葉に込められた東北学院草創期の精神にほかなりません。内ヶ崎がこの精神を誰からどのようにして伝授されたのかは定かではありませんが、二高時代に、「押川方義、松村介石、蝦名弾正諸氏の講演にも出席するやうになった（小野寺宏『愛天内ヶ崎作三郎資料・第2集』、59ページ）と述べていることからすれば、押川から直接聞いた可能性もありますし、あるいはまた栗原や島地雷夢などから教わったのかもしれない。いずれにしても、当時の東北学院の精神が、三人に共有されていたということは、とても興味深いことです。そして、彼らのその後の日本の言論界や政界での活躍と大正デモクラシーに及ぼした影響の大きさに鑑みますと、「東北学院が大正デモクラシーの源流の一つであった」と言っても、必ずしも外的外れではないように思われます。

今年から、東北学院では、明治から大正時代の先人たちの足跡を掘り起こすプロジェクトがスタートしましたが、この中で、以上のようなことを含めて、大正デモクラシーと東北学院との関係についてさらに深い研究がなされてほしいものです。

### 体感!! 東北学院大学

『オープンキャンパス2003』

開催のご案内

「大学ってどのようなところ？」その問いに答えてくれるのが、8月1日（金）に泉キャンパスと多賀城キャンパスを会場に開催される『オープンキャンパス2003』です。

泉キャンパスは、文学部、経済学部、法学部、教養学部、多賀城キャンパスは、工学部を対象とし、両キャンパスともに、入学試験、講義内容、サークル活動、就職状況などの説明会を行います。泉キャンパスでは、模擬授業、最新の設備を備えた図書館、オーディオ・ビジュアルセンター、情報処理センターを見学する施設ツアーなどを企画しています。また、多賀城キャンパスでは、さまざまな研究の紹介とともに、最新の実験機器を見学することができます。

高校生はもちろん、一般の方も自由に参加できる『オープンキャンパス2003』。事前の申し込みや参加費は不要です。皆さまの参加をお待ちしています。



昨年のオープンキャンパス（泉キャンパス）



（多賀城キャンパス）

問い合わせ先  
総務部調査企画課  
E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
TEL. 022-264-6424 / FAX. 022-264-6364

# From the President.

## 学長室より

### 財団法人大学基準協会による相互評価報告

学長 倉松 功

昨年度(平成14年度)、本学は国公立大学の基準認定・評価機関として、我が国で最も長い歴史と経験を有する大学基準協会によって、「大学基準適合認定」を受けました。基準認定にかかわる評価、助言、勧告などを以下に報告いたします。概ね適格な評価を与えられたことは御同慶の至りです。このことは、本学の伝統と最近の本学改革についての全学的協力の結果と史料しています。引き続き、伝統と改革の調和を旨としつつ、懸案中の諸改革と本報告に記されている改善すべき諸問題についての対応、その他日常的業務の見直しに、全教職員とともに取り組みたいと願っています。

なお、本報告書の基になった資料は平成14年3月末時点のものであり、評価における「問題点の指摘」にかかわる項目の中に既に改善への取り組みが行われているものもありますが、それらの詳細については改めて報告する予定です。

#### I 相互評価結果

2002(平成14)年度相互評価委員会において、貴大学は、大学基準に適合し、かつ、改善の努力が認められる旨の評価結果が下され、また、評議員会および理事会において、同評価結果が満場一致をもって承認されたので、ここに貴大学は相互評価の結果、本協会の大学基準に適合していることを認定する。

#### 助言勧告

##### (1) 概評

福音主義キリスト教に基づいて個人の尊厳を重視する教育の伝統に立ちつつ、文学、法学、経済学、工学、教養の5学部を擁する総合大学へと発展してきた貴大学は、キリスト教に基づく人格教育とリベラル・アーツを土台として各学部の専門的知識を修得した有用な職能人を世に送り出す特色ある「教養教育型総合大学」である。キリスト教を必修とし、日々の礼拝をとおしてキリスト教の精神の浸透を図っていること、教養学部が自身では今日的な学科構成を持ちながら、全学共通の教養教育を担うべく努力を傾けていること、大学院を中心として社会人に広く門戸を開放している点、高等学校での教育と大学教育との接続に工夫を凝らすとともに、貴大学の入学試験の評価を県内の複数の高等学校に依頼していることなどは推奨に値する。さらに、サバティカル・リーブの制度を導入していることや、海外への学会に対する旅費を補助していることなどは、教員の研究奨励のための努力として評価できる。これらのことから、貴大学は東北地方の個性ある総合大学として、今後も着実に地歩を固めてゆくことが十分に期待される。

しかし、複数の学部において、収容定員に対する在籍学生数比率が高い一方で、一部の学科や大学院において、顕著な定員割れが生じていること、交換留学の規模が小さく、留学生も極

めて少ないこと、文学部を中心に、教員の高齢化が進行していること、図書館の年間開館日が少なく、また電子化が立ち遅れていることなどは改善が望まれる。全学および各学部において、FDに組織的に取り組む努力も求められる。

なお、今回の貴大学における自己点検・評価の結果並びに本協会の相互評価の結果に対し、全学的・組織的に対処し、教育研究のさらなる改善に結びつけることが望まれる。

##### (2) 大学に対する提言

###### 一、助言

###### 長所の指摘に関わるもの

- 1 理念・目的・教育目標について  
キリスト教に基づく人格教育の一環として、毎週月曜から土曜まで、3つのキャンパスにおいて、礼拝を遂行している努力は評価できる。
- 2 教育研究組織について  
今日の社会に適合した目的の学科を包摂し、かつ全学の教養教育を担う教養学部をとおして、教養教育型総合大学の維持・発展を図っている点は、評価できる。
- 3 教育研究の内容・方法と条件整備について  
県内の複数の高等学校に、貴大学の入学試験問題を事後に評価・検討を依頼している点、また、高・大の接続をさまざまな方法で工夫している点は、評価できる。
- 4 研究活動と研究体制の整備について  
専任教員が7年に1回、サバティカル・リーブの制度を利用し、研究に専念する機会を与えられている点は、評価できる。
- 5 施設・設備等について  
教養学部を中心とする泉キャンパスは、学生の勉学生活に配慮した充実した施設として、評価できる。
- 6 学生生活への配慮について  
大学生が受けるに相応しい、行き届いた就職指導が行われている点は、評価できる。

###### 問題点の指摘に関わるもの

- 1 理念・目的・教育目標について  
貴大学の理念・目的が、受験生・在学生に対し、一層明確なメッセージとして伝わるよう、改善の努力が望まれる。
- 2 教育研究組織について  
全学の教養教育を担う当面の責任主体を組織面で確立するとともに、将来の担当組織について明確で具体的な計画を立案するための、改善の努力が望まれる。
- 3 学部の教育研究の内容・方法と条件整備について  
経済学部・法学部においては、コアとなる科目を明確化し、教養学部においては分野間の関連を示すよう、改善の努力が望まれる。
- 4 大学院の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について  
各研究科において学位の授与数が少ないので、改善の努力が望まれる。
- 5 学生の受け入れについて  
文学部キリスト教学科における収容定員に対する在籍学生数比率が低いので、是正されたい。文学研究科英語英文学専攻修士課程、法学研究科法律学専攻博士課程、工学研究科機械工学専攻博士課程、同電気工学専攻博士課程、同土木工学専攻博士課程における収容定員に対する在籍学生比率が低いので是正されたい。一方、文学研究科アジア文化史専攻修士課程における収容定員に対する在籍学生比率が高いので是正されたい。文学部・経済学部・法学部・工学部において、編入学者の定員を満たさず、改善の努力が望まれる。
- 6 教育研究のための人的体制について  
文学部、工学部、教養学部では60歳以上の専任教員がそれぞれ41.9%、35.6%、36.6%と多くなっているため、年齢構成の全体的バランスを保つよう改善の努力が望まれる。FDを組織的に行うために、改善への努力が望

# Close Up

## 変わる土樋キャンパス

—「東北学院大学総合研究棟」を建設—

「学都仙台」の中心部に位置する東北学院大学土樋キャンパスでは、平成12年に竣工した8号館(教育・管理棟)及び新体育館に続き、平成16年4月からの使用に向けて、現在「総合研究棟」を建設しています。今回、その建設に至った経緯と施設内容について、法人事務局施設部長に報告をお願いします。

施設部長 伊藤 浩吉

本学では、土樋キャンパス整備計画案について数年前より大学長期計画委員会で種々検討しております。その一つとして、大学院を含めて7箇所に分散している資料室と研究所の充実を図るための総合研究センター構想が検討されてきました。一方、文部科学省の大学改革の一環である法科大学院の設置について、本学においても平成16年4月の開学を目指して準備を進めています。この二つの要件を満たすために、「東北学院大学総合研究棟」を土樋キャンパスの一角に建設することになりました。

地下1階から地上2階までの3層は、総合研究センターの専用施設として利用します。地下1階は、研究所、資料室、大学院関係の和・洋雑誌の製本図書など約58万冊を収納する二層式の電動書庫とします。1階には、和・洋雑誌、各大学論集を配架し、資料室の事務室、レファレンスコーナーを配置します。2階には、研究所などの研究会や打ち合わせに使用できる個室を備えるとともに、研究所・資料室の約6万冊の図書を収納する専用の積層書庫を配置します。また、研究所などの催事場所としても利用可能な多目的ホールを備えます。3階から6階までは、法科大学院専用としての機能を備え、模擬法廷や講義室、演習室などの施設となり、7階・8階には、教員の個人研究室、会議室、応接室などの施設を備えた建物になります。新棟の延床面積は約5,500㎡で、平成16年3月に完成する予定です。



「総合研究棟」完成予想図

まれる。

- (3)研究支援について、助手がおらず、教務部の事務職員や資料室勤務の職員が、その任務を担っているようで、この点は改善が求められる。また、そうした事務職員の時間外勤務に対する改善策も求められる。

### 7. 研究活動と研究体制の整備について

- (1)法学部・法学研究科において科学研究費補助金の獲得が少ないので、申請数を増やすなどの対策をとることが望まれる。また、ティーチング・アシスタント(TA)を活用して教員に対する支援を行うことが望まれる。

### 8. 図書館及び図書等の資料、学術情報について

- (1)中央図書館は年間の開館日が少ないこと、夜間主コースを設置しているにもかかわらず閉館時間が早いことへの改善の努力が望まれる。

### 二 勸告

#### 1. 学生の受け入れについて<sup>(※)</sup>

- (1)文学部一部史学科(1.38)、経済学部商学科(昼間主コース)(1.45)、経済学部経営学科(昼間主コース)(1.36)、工学部機械工学科(1.29)、工学部電気工学科(1.26)、教養学部教養学科言語科学専攻(1.38)、教養学部教養学科情報科学専攻(1.31)における収容定員に対する在籍学生数比率が高いので正されたい。

### 三、参考意見

貴大学の参考に供するため、相互評価委員会において示された個別的な意見を以下に列記する。

- (1)貴大学にユニークなキリスト教文化研究所が、専任の研究員を欠いているので、改善に向けた努力が望まれる。
- (2)全学的に交換留学の実数も交換協定校の数も少ないので、改善する努力が望まれる。
- (3)専任教員の授業負担が大きいので、授業負担の軽減に向けた努力が望まれる。

※平成13年度の資料に基づいており、平成15年度の学生収容定員に対する在籍学生数比率は、文学部史学科(1.20)、経済学部経営学科(昼)(1.30)、工学部機械創成工学科(1.17)、工学部電気情報工学科(1.19)、教養学部教養学科言語文化専攻(1.29)、教養学部教養学科情報科学専攻(1.26)となっている。

Harmony of Blue and Green.

## Graduate school info. 大学院より

### 文学研究科

大学院英文学専攻課程協議会の研究発表会が本学を会場に今秋開催

文学研究科英語英文学専攻が設立30周年を記念し、本専攻修了の研究者と英語教育専門家によるシンポジウム(「文学研究の現状と課題」と「英語教育の諸問題」がテーマ)や講演会、祝賀会を開催して、早や10年になるようとしています。その間、アジア文化史とヨーロッパ文化史の二つの専攻が文学研究科に加わりました。

英語英文学専攻は、設立後間もなくから、いくつかの在京私立大学と「委託聴講制度」という単位互換制度を発足させました。現在は、青山学院、法政、上智、明治、明治学院、日本女子、立教、聖心女子、東京女子、東洋、津田塾の11

大学と、本学の大学院英語英文学専攻がこれに加わって、「大学院英文学専攻課程協議会(通称「英専協」)を設置し、運営にあっております(詳細は本誌第8号、2001年10月20日発行を参照)。

英専協は、単位互換のみならず、当番校が交代で事務局・開催校となり、院生の研究発表会を開催しています。院生とともに計画し、異なった大学の院生同士の、また、スタッフもアドバイザーとして参加して、学術交流を積極的に進めています。研究発表会は、毎年、秋以降に開催することが恒例となりました。

今年は本学が事務局となり、11月29日(土)に仙台で12年ぶりに英専協の研究発表会が開催される予定です。昨年の津田塾大学での大会では、7つの会場で、イギリス文学系の詩・小説・文化・戯曲に関するもの12編、アメリカ文学系の詩・小説・その他に関するもの12編、英語学系として、音声学・日英語対照研究・英語教育に関するもの4編の研究が発表されました。昨年以上の盛況が今年は期待されています。

当番校としては、40年近くにわたり培われてきた伝統をしっかりと守り、「新しきを知る」ことを目標に、大会に向けて着実に準備しているところです。

## 第53回「東北・北海道地区大学一般教育研究会」を本学で開催

東北・北海道地区の約135大学・短期大学が会員となり、大学における一般教育に関する研究を行うことを目的に、「東北・北海道地区大学一般教育研究会」を組織しています。この総会及び研究会が、本年9月11日(木)、12日(金)の両日、東北学院大学の土樋キャンパスを会場に開催する運びとなりました。本学での前回の開催は、昭和44(1967)年、当時の小田忠夫学長の時代で、実に36年ぶりの開催となります。今回、委員長には本学の倉松功学長、副委員長には大坂治教授(北海道教育大学)と本学の大塚浩司副学長(工学部教授)があたりれます。詳細は後日お知らせしますが、皆さまの参加と発表をお待ちしています。



### 人間情報学研究科の近況報告

#### 人間情報学研究科

人間情報学研究科では、春期入試が終了し、修士、博士の学位審査も終了しました。

春期入試では、博士課程後期課程で2名の合格者が出ました。今年度の入学者は、博士課程前期課程の2名と合わせて全体で4名となります。本研究科では、社会人の院生が多く、日常的な仕事と学位論文の作成とに日夜励んでいる方々が少なくありません。こうした苛酷ともいえる日常生活の中で学位を取得するには、並大抵の努力と時間では間に合いません。それにもかかわらず、昨年度は多数の取得者を送り出すことができ、

また博士の学位取得者を2名も出せたことはうれしい限りです。在学生と指導教員の励みになるものと確信しています。

昨年来、本研究科では新たに「情報」の専修免許の取得を可能とするために、文部科学省と折衝を重ねてきましたが、この度正式に認定されました。これにより、本研究科では都合5種類の免許状を出すことができることとなります。生涯にわたる教育と自己研鑽が求められている現在、本研究科はこの方面でも地域社会に貢献できるものと思っています。本学卒業生で教職についておられる方々に

は、とりわけ利用をお勧めいたします。

本研究科が直接準拠している教養学部では、専攻制から学科制への移行と、新たな学科の新設が検討されています。本研究科も、これにいかに対応するかが今後の大きな課題となってきます。いずれにしても、学部の改組に伴い、本研究科もまた拡充に向かうということです。いくつかの対応方策が考えられるでしょうが、このための検討が本格的に進められていく必要があります。近い将来、本誌で報告できるものと思っています。

# Faculty info.

## 学部より



### 文学部

#### キリスト教学科の諸行事

キリスト教学科の1年の歩みは、4月、土樋キャンパスにあるラーハウザー記念礼拝堂での始業礼拝をもって始まり、翌年3月の卒業礼拝をもって終わります。特に卒業礼拝は、それに続いて行われる歓送会も在学生によって準備され、卒業生は礼拝の説教や司式、時には奏楽も担当します。大学関係者のほか、卒業生の家族、友人、所属教会の方々も参加し、厳粛な中にも和やかで希望に満ちたものです。礼拝をもって始め、礼拝をもって終わるところに、本学科の特長があらわれているといえるでしょう。礼拝(ワーシップ)とは、神をして価値あらしめるということです。私たちは聖書の神がキリスト教学科の出発点であり、土台であることを、こうしてこぞって確認することから始め、終わるのです。

5月と3月の年2回開催される「キリスト教学科修養会」も、私たちの学科の特色を示すものです。キリスト教学科で習得する知識は、観念的なものでなく、全人格的なものであり、実践的なものです。学びの完成のため、修養会が用いられます。修養会のことを英語ではリトリートと言い、退修とも訳されます。短期間でも日常を「中断」し、日常から一步退いて、教師も学生も生活を共にしながら、聖書を読み、交わりを深め、一人ひとり自省する時です。ヒンズー教にもアシュラムと言われるものがあり、私たち現代人は、いつも能動的・活動的なだけでなく、時には受動的になってじっくり考える、あるいは何もしない、そのような時が誰にも必要なのではないのでしょうか。3月の修養会には、毎年卒業生の参加があり、彼らの現場からの報告や発言は、現役学生にとってよい刺激となっています。教師にとっても、自らの研究課題を知るよい機会です。

さて、このような環境の中から育った123名の卒業生が、現在、教会や学校をはじめ、福祉などの多くの分野で活躍しています。ここで学んだ聖書の真理に堅く立って、世界の人々と心を通じ合い、平和な社会の実現のために努力してほしいと願っています。志ある方、ここで学んでみませんか。

#### 輝く教育・研究

歴史に学ぶ共生の知恵 文学部(史学科)教授 楠 義彦

昨今の緊迫する国際情勢は、あらためて共生(異質な他者との共存の意)が、現代世界の基本的価値観の1つであるという思いを抱かせます。

私の専門とするエリザベス時代(1558~1603年)のイングランドにおいては、国教会以外の信仰を持つ者は非法な存在でした。特にカトリック教徒は外国と手を結んで国家転覆を謀る危険分子と考えられ、厳しく取り締まられました。ところが詳しく研究してみると、彼らの中には自由を謳歌し、極めて重要な職務に任じられ、ひそかにミサも黙認された、そういった者のいることがわかってきました。

地域社会の中で確固たる地位を占める彼らの力を利用し、社会の活力を高めるとともに、地方統治にも役立てようとした時代の知恵を、現代においても学ばなければならないと思います。

## 教養学部

### ノートPCを使用した コンピュータ基礎教育

教養学部の情報科学専攻では、3年前よりノートPCによるコンピュータ基礎教育を行っています。これは、入学と同時に一人ひとりの学生が自分自身のノートPCを持ち、在学4年の間、情報科学専攻で行われるコンピュータに関連する演習の道具として使うためです。このノートPCの使われ方を、一年次の演習科目である「コンピュータ入門ABC<sup>(注)</sup>」を例にして紹介します。

この科目の目的は二つあります。一つは、自信を持ってコンピュータを扱えるようにすること。このためには、学生がなるべく多くのことを手を動かして学ぶ必要があります。そのために、このノートPCでは既存のシステム構成に加えて、情報科学専攻独自のシステムを追加するようにしています。この作業も個々の学生諸君の仕事になるわけです。二つ目は、コンピュータの情報処理で扱う情報の多様さと、これらを扱うコンピュータの処理方法の裾野の広さを知ってもらい、かつ、手を動かしてこの世界への感性を養うことです。そのために必要なコンピュータプログラムを設定する作業も、個々の学生諸君の仕事になります。このような取り組みを3年前から始めました。その結果として、コンピュータに対して積極的になる学生は確実に増えました。

「情報科学」を学問としてみると、コンピュータが行っている情報処理のみならず、人を含めた生き物が生存のために行っている情報処理の仕組みについてなど、興味が尽きません。この「情報科学」という頂のほんの裾野の教育に対する努力ですが、これなくしては、この頂には登れません。

(注)「コンピュータ入門ABC」とはいかにも平凡な科目名ですが、これには誇れがあります。コンピュータの世界で「ABC」といえば、これは世界で最初のコンピュータであるAtanasoff-Berry Computerすなわち、ABCであるからです。



## 輝く教育・研究

最新の研究 教養学部(教養学科言語文化専攻)教授 エルンストF.ゾンダーマン

ロシアの戦艦「ナジェジダ」号が長崎湾に現れたのは1804年の秋でした。ロシアの使者N.P.レザーノフ以下、80名に及ぶ自然科学者や乗組員が乗り込んでいました。彼らの使命は3つありました。(1)日露間の通商条約締結、(2)難破船日本人乗組員4人の帰還、(3)北太平洋の自然科学的地理学的学術探検です。

通商交渉はうまくいきませんでした。4人の東北出身の船員は無事故郷に帰りました。彼らは、この探検で日本についての新たな知識を得ることになりました。その一部は1810年に出版されています。しかし、大多数は未刊行のままです。私はその資料を集めるために、ロシアやドイツに何度も行きました。

描かれている日本人の肖像画が誰であるのか、また風景がどの地方を描いたものなのかを、日記などの資料を調べながら探っています。うまく見つけ

られたときは、難解なパズルを解いたときのような感動が起こります。しかし、日本人を描いた原画と印刷されたものを見ると明らかに違います。原画は人物の特徴が色彩豊かに丁寧に描かれているのですが、印刷されたものは特徴がなく、どれも同じような人間に見えます。

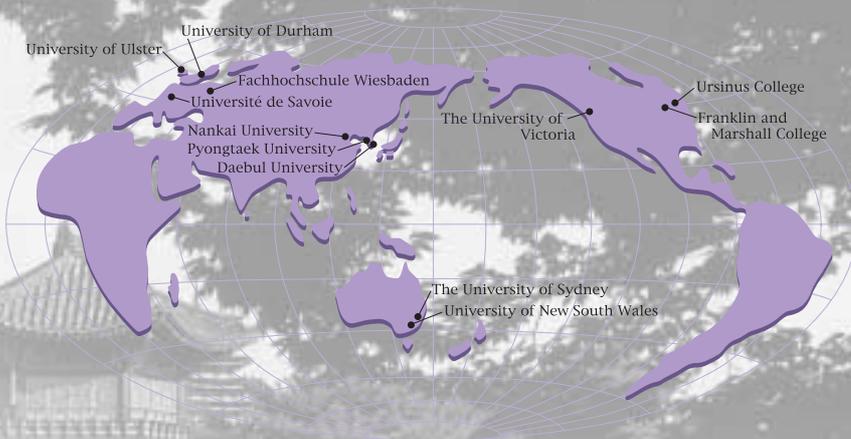
少しばかり推理を働かせて考えることにします。おそらく、ヨーロッパの読者には、日本人一人ひとりが問題になることはないでしょう。彼らには、日本人の姿、頭の形状、衣装、髪型といった一般的なものに関心があったと思われる。しかし、カメラの出現以前はずいぶん歪んだ日本人像がまかり通っていたのだと、改めて思います。今の日本人が、そのような姿を見たらどのような反応を示すでしょうか。私には大変興味深い問題です。過ぎ去った時代や異なる文化との対話の中で、私たちは自分自身についての何かを知ることになります。この研究は、そのことを魅力的に実り豊かに教えてくれます。

## 国際交流センターより

### 国際性を養う真の異文化理解

#### 新たな協定校の拡大へ向けて

東北学院大学では、米国、イギリス、ドイツ、韓国、そして中国に7つの協定校があります。このたび、新たに次の5校を国際交流協定の対象校とすることになりました。今後、協定が締結されると、オーストラリア、カナダ、フランスにも協定校が拡大することになります。



### Daebul University

大仏 デブル 大学校

韓国、全羅南道靈岩郡にある1994年に創立された新しい大学です。4単科大学、6大学院を合わせ持つ総合大学で、約5,000名の学生が学んでいます。李副総長をはじめ教職員の60%強がクリスチャンです。1997年に李副総長と工学部長が本学を訪問したことが契機となって交流が始まりました。本学工学部から1999年と2001年の2回、工学部長を団長に学科長と教員が大仏 デブル 大学校を訪問しています。

### The University of Victoria

ビクトリア大学

1963年創立のカナダ有数の公立総合研究大学で、9学部、大学院、生涯教育部などから構成されています。学生数は約17,000名(学部生15,000名、大学院生2,000名)で、うち650名は外国人留学生で、70カ国から集まっています。大学のあるビクトリア市はブリティッシュ・コロンビア州の州都で、バンクーバーやシアトル市からアクセスが容易であり、盛岡市と姉妹都市の関係にあります。言語学科のJoe F. Kess教授が本学でこれまで2回講演を行っています。カナダは、国民の80%がキリスト教徒で、銃の所持が禁止されています。その意味で、学生を派遣するのに比較的安全な国といえます。

### The University of Sydney

シドニー大学

オーストラリアのシドニー市にあるオーストラリアで最も古い大学で、1850年に創立されました。農学、教育、医学、法律、経済、工学、人文科学など15の学部と大学院をかかえています。学生数は、約35,000名で、そのうち留学生は3,000名となっています。

2002年6月に倉松学長がシドニー大学を訪問し、国際交流関係責任者や日本語担当教員などと懇談しています。

### Universite de Savoie

サヴォア大学

アルプスのふもと、スイスとイタリアに境を接するフランス・サヴォア地方にある総合大学で、この地方の学問・教育の中心的機関となっています。学部・学科構成は、法律、経済・社会、経営、文学、外国語、人文、工学(電気・情報・機械・材料・環境など)です。学生数は12,000名で、そのうち1,000名が約100カ国からの留学生です。フランス語教育センターが設置されており、本学からの留学生の目的・希望が集中すると思われるフランス語研修に好都合となっています。Yves Cadiou教授が本学を数回訪問され、講演会も行っています。

### University of New South Wales

ニューサウスウェールズ大学

オーストラリアのシドニー市にあり、1949年にThe New South Wales University of Technologyとして創立され、1958年に改称して現在の大学名となりました。人文、社会科学、建築環境学、経済学、工学、法学など8学部と大学院を有しています。学生数は、28,200名で、そのうち約3,700名が留学生となっています。

倉松学長が昨年6月にニューサウスウェールズ大学を訪問し、さらに同年12月には、Masud Behnia教授が本学を訪問されています。

#### 国際交流協定校と協定対象校

- University of Durham  
ダラム大学 イギリス)
- University of Ulster  
アルスター大学 イギリス)
- Fachhochschule Wiesbaden  
ヴィースバーデン大学 (ドイツ)
- Université de Savoie  
サヴォア大学 (フランス)
- Nankai University  
南開大学 (中国)
- Pyongtaek University  
平澤大学校 (韓国)
- Daebul University  
大仏大学校 (韓国)
- The University of Sydney  
シドニー大学 (オーストラリア)
- University of New South Wales  
ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)
- The University of Victoria  
ビクトリア大学 (カナダ)
- Ursinus College  
アーサイナス大学 (アメリカ)
- Franklin and Marshall College  
フランクリン・アンド・マーシャル大学 (アメリカ)

問い合わせ先 国際交流センター事務局  
TEL 022-264-6425/6404

## Institute for Research and Center info.

### 研究所・センターより

快挙!! 平成14年度公認会計士  
第二次試験に本学卒業生が見事合格  
経理研究所

経理研究所は、会計学に関わる諸分野の研究を深めるとともに、関連する文献・資料を収集・整理し、それらを広く学内外の研究者・実務者に利用していただくことを目的としています。昭和27年に設立され、既にほぼ半世紀に及ぶ実績をあげています。研究成果は、全国的にも数少ない会計学専門研究誌『東北学院大学経理研究所紀要』に発表され、その水準の高さが広く評価されています。

平成6年からは、同窓の職業会計人、大学院生及び学部学生などの多くの参加者を得ながら、経理研究所研究会を年2回開催しています。また、職業会計人TG会(会員約120名)、日本公認会計士協会東北会などの後援のもとに、講演会(公認会計士制度講演会及び税理士制度講演会)を開催し、さらに学内外に開かれた公開講義(簿記検定試験、税理士試験、公認会計士試験などへの受験対策を兼ねた簿記会計講座)を平成8年より開催しています。昨年度は、2級・3級検定簿記講座を中心に約260名が熱心に参加し、着実に成果を出しつつあります。今年度からは簿記講座プログラムを全面的に見直し、よりパワーアップした内容での実施を予定しています。

最後にうれしいニュースをお知らせいたします。この度、公認会計士第二次試験に、平成6年に本学経済学科を卒業した石田靖子さんが見事合格しました。本学の簿記会計講座を受講する皆さんには、石田さんを目標として勉学に励み、一人でも多く所期の目的を達成することを願ってやみません。

問い合わせ先 経理研究所(経済研究資料室内)  
TEL.022-264-6340

## Library info.

### 図書館より

「専門図書館協議会」  
全国研究大会の開催

国内には、現在、官庁や地方議会、民間各種団体、調査研究機関、企業、大学その他の図書館、資料室、情報管理部などにおける相互の連絡と図書館活動の有機的連携を図り、その向上と発展に資することを目的に、多くの専門情報機関が設置されています。それらのすべてを網羅している全国的組織が「専門図書館協議会」です。

本学の図書館は、東北地区協議会(会長は倉松功本学学長)に属し、その事務局を兼ねています。中央図書館地階の書庫及び7号館3階の資料室には、政府刊行物コーナーを設け、学内や加盟機関、そのほか多くの方々に広く利用されています。

専門図書館協議会の事業の一つである総会並びに全国研究大会が、今年は6月4日から6日の3日間、本学の土樋キャンパス8号館押川記念ホール、会議室、体育館アリーナを会場に開催されます。総合テーマの「戦略的情報サービス」とサブテーマの「インフォプロに学ぶ」を掲げ、女性と仕事の未来館館長の樋口恵子氏、小マーケティング情報誌「今日の雑学+(プラス)」編集長の橋昭彦氏による講演をいただきます。また、「ナレッジマネジメントの真髄 ライブラリアンにとっての実践」、「情報のユニバーサルデザイン」、「外国の電子学術情報バリアへの挑戦」、「著作権 不当と違法の狭間で・・・」、「Amazon.Com」、「現状に対応できるインフォプロを目指して」という6つのテーマをもとに、分科会が行われます。

問い合わせ先 図書館事務局  
TEL.022-264-6491



7号館3階資料室「政府刊行物コーナー」

大 学 院	文学研究科(博士課程)	英語英文学専攻
		ヨーロッパ文化史専攻
		アジア文化史専攻
	経済学研究科	経済学専攻(博士課程)
		経営学専攻(修士課程)
	法学研究科(博士課程)	法学専攻
	工学研究科(博士課程)	機械工学専攻
		電気工学専攻
		応用物理学専攻
		土木工学専攻
	人間情報学研究科(博士課程)	人間情報学専攻

学 部	文学部	英文学科	昼間主コース 夜間主コース
		キリスト教学科	
		史学科	
	経済学部	経済学科	昼間主コース 夜間主コース
		経営学科	昼間主コース 夜間主コース
	法学部	法律学科	
	工学部	機械創成工学科	
		電気情報工学科	
		物理情報工学科	
		環境土木工学科	
	教養学部	教養学科	
		人間科学専攻	
		言語文化専攻	
		情報科学専攻	

### 宗教部

図書館	中央図書館	泉分館
	工学部分館	

研 究 所	英語英文学研究所	経理研究所
	キリスト教文化研究所	社会福祉研究所
	ヨーロッパ文化研究所	法学政治学研究所
	宗教音楽研究所	教育研究所
	東北文化研究所	環境防災工学研究所
	東北産業経済研究所	人間情報学研究所

セ ン タ ー	オーディオ・ビジュアルセンター	国際交流センター
	カウンセリング・センター	入学試験センター
	情報処理センター	産学連携推進センター
	教職課程センター	

## Placement info.

### 就職部より

平成14年度の就職状況がまとまる。

人生の新たなチャンスを手に入れた数多くの新入生が本学の門をくぐり、キャンパスは授業の開始とともに再び活気を呈しています。新入生は、4年間の学生生活が円滑にスタートできるように、入学式の翌日から始まる各キャンパスでのオリエンテーション行事に積極的に参加しています。

新入生はこれからの4年間、勉学やクラブ活動、そして友人との交流の中で、「大学の空気」を思う存分吸収し、将来の更なる飛躍に向かって「人生の助走」をつける必要があると就職部では考えます。それは、1年次から、自分の人生において「何をしたいか」ということを真剣に考えるということであり、職業の選択だけでなく、生き方の問題でもあります。人生において自分「何をやりたいのか」を早くから真剣に考える人は、職業にかかわる目標も決まり、それに向かって努力するようになります。自分の将来を考える場合、単に、経済的安定や企業の名声という観点からだけではなく、自分の個性と能力を十分考えるとともに、社会への奉仕ということも忘れてはなりません。

就職部では、平成14年度の就職状況を次のとおりまとめました。文科系学部の合計は90.1%(前年度比1.0%減)、工学部の合計は92.9%(前年度比0.4%減)、全学部の合計では90.7%(前年度比0.8%減)となっています。学生を取り巻く就職戦線が、現下の厳しい経済状況による超氷河期の再来といわれる中、この数字は大いに評価できるものです。一方で、就職できない学生や就職しない学生の存在も無視できません。個々の学生の特徴や意識の持ち方などを含め、さまざまな要因を多角的に分析し、さらに検討を重ねていきたいと考えています。

問い合わせ先 就職課 TEL.022-264-6481

## Admissions info.

### 入試センターより

平成16年度の入試日程が決まりました。

一般入試(前期日程)

- 2月1日 経(昼・夜) 機械創成工、物理情報工
- 2日 経(昼・夜) 人間科学、電気情報工、環境土木工
- 3日 英(夜) 法律、言語文化
- 4日 英(昼) キリスト教、史、情報科学

一般入試(後期日程)

3月9日 全学科・専攻

A0入試(第1次選抜の出願受付期間)

- A日程 1回目 8月27日 ~ 9月2日
- 2回目 9月17日 ~ 9月22日
- 3回目 10月8日 ~ 10月14日

B日程 11月20日 ~ 11月26日

推薦入試(学業・資格取得・キリスト者・スポーツ)

11月14日 全学科・専攻

社会人特別入試(夜)

A日程 11月14日

B日程 3月8日

外国人特別入試

2月4日

編入学試験(A:一般・推薦、B:一般・社会人・外国人)

A日程 10月9日

B日程 3月8日

問い合わせ先 入試課 TEL.022-264-6455

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額10億円】

- 1 東北学院育英奨学基金の増額
- 2 東北学院高等学校校舎(家庭科実習室等)整備
- 3 東北学院大学教育・管理棟建設(土樋キャンパス)

詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6510

### 東北学院大学

土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学 部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL.022-227-1221 FAX.022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.13

### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部助教授	塚本 信也
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	井上 捷二
	総務部総務課長補佐	日野 哲
	総務部調査企画課係長	小原 武久
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌<sup>®</sup> (ウーラノス)<sup>®</sup>に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。  
なお、平成15年度より、従来の6月20日の発行日を5月15日の創立記念日へ変更しています。

発行日 平成15(2003)年5月15日  
編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発 行 東北学院大学

〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-6364  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp  
印 刷 (株)エイエイビー



注釈配合率100%再生紙を使用しています

この印刷は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。